

白熱教室

7月23日、早稲田大学国際会議場で埼玉県教育委員会主催の第3回『白熱教室入門』があり、本校からは6人の生徒が参加しました。全体では200人の参加がありました。講義の構成は次のとおりです。

第1部『世界を旅して学ぶこと、コミュニケーションの大切さ』

講師 お笑いコンビ・ヴィンテージ 武井俊祐 大赤見亘彦

第2部『白熱教室入門』高校生のための対話型講義

「グローバル社会と公共」～公共と人々に私たちはどうかかわるか～

講師 千葉大学大学院人文社会科学研究所教授 小林正弥

はじめに、小林教授から対話(ダイアログ)が、会話、ディベートとは異なる概念であると、説明がありました。会話はお互いの価値観の違いには立ち入りません。対話は考え方の違う人と真剣に話し合うことを意味します。対話は、相互理解を深め、考える力、応答する力、自分を振り返る力などを身に付け、討論の参加者がともに新たな思考の地平に到達することを目的にしています。論争に勝つことが目的ではありませんので、特にディベートと混同しないよう気をつけなければなりません。

今回の白熱教室では「グローバル化とどう向き合うか」について深く考えさせられました。海外から農産物を輸入することは、日本の農業にとって死活の問題です。国内農産物の自給率から出発した議論は、日本が歴史的に海外からの文化を摂取して、独自の文化を築いてきたことを例にあげてグローバル化を肯定する意見につながりました。他方で「グローバル化が行き過ぎると問題が生じるのですりあわせが大事」という意見(本校2年生)もありました。

次に明治時代に、森有礼が英語国語化論を主張したことを例にあげ、英語の公用語化政策に賛成か反対か議論しました。様々な問題を設定して意見を出し合いました。議論は英語を話せることをどう評価するのかに絞られていきます。それは英語を話せることが他の能力よりも優先されていることへの疑問として出てきたようでした。賛成の意見はビジネス優先、反対意見は文化を尊重していました。本校3年生が「英語には英語でしか表現できない文化があって面白い。同様に日本語には日本語でしか表現できない文化があるから日本語を学びたいと言う外国人もいる」と意見を発表しました。また本校2年生は「公用語には日本語を使うほうがいいと思ったが、手を上げることができなかった。自分と違う意見があって、とても勉強になった。人前で意見を言うことはとても大切なのでちゃんとできるようになりたい」という感想を述べています。

この後、少子高齢化の解決策として移民政策の是非をめぐる議論がありました。議論の後、本校2年生は「移民政策には今も反対。はじめは相手をどう論破するかを考えていたが、いろんな意見を聞いて、そういう見方もあるということに気づき、視野の広い意見を持てた」と感想を述べています。

今回初めて参加した2年生は「仮定された場面について真剣に考えること、他人の意見を聞き、自分の意見と混ぜること、いろいろなことを楽しいと感じた。また開かれる機会があれば、ぜひとも参加したい」と感想を寄せています。

「白熱教室入門」は、他校の生徒と議論する有意義な機会です。視野の広い人間になるため、来年度以降も希望者が出ることを期待しています。

